

<平成27年度 体験記の部 優秀賞>

社内安全研修

(中 部) F物産(株) H. O

私は現在の会社で、**二十年間大型トラックのドライバー**としてハンドルを握り自動車部品や一般貨物の輸送に従事。その後、二年半ほど**配車担当の経験**を積み、現在の**安全担当**という立場になり今年で四年目を迎えています。

事故は一瞬にしてすべてを不幸にしてしまいます。わが社の命運はすべて安全担当である自分にかかっているとの自覚で日々懸命に業務に取り組んでいます。

私が安全担当という立場になり、まず変わったのは自分自身の運転でした。もともと自分では日頃から安全運転をしているつもりではいたしましたが、立場上、**様々な事故の事例を見聞きすること**でいかに**自分の運転が危険**なのかがよくわかりました。

まず普段**通い慣れた通勤ルート**。見通しの悪い**抜け道**や**狭小道路**。よく今まで平然と走っていたなあと**思い事故になる前に気付**けてよかったですと思いました。

現在は、**右左折の回数を最小**にすることや**見通し**や**道幅**なども考え事故の**危険の少ないルート**を選択し、通勤しています。

私は立場上、**社内ルールの厳守**や**身だしなみのチェック**、**運転データの速度**や**エンジン回転数**、**連続運転**など**口やかましく言う**のですが、言う以上まずは**自分自身が模範**とならなければなりません。走行中は**イチマルマルイチ**、**イチマルマルフタ**、**イチマルマルサン**、**イチマルマルヨン**の**四秒以上の車間距離**をあげ**信号待ち**の時には**前の車との距離を乗用車が一台分**入るくらいあけています。

プライベートにおいても**社内で決められた社内速度**を守り、**発進時の前後左右の呼称確認**、**交差点直進時**、**右左折時**、**横断歩道手前の呼称確認**や**イエローストップ**を実践しています。自分が実践することで**ドライバーへの指導も実体験を基に具体的に指導**できます。

そして何よりも**私たちの職業は常に危険と隣り合わせ**であること。せつかくお金を稼ぎに来ているのにもかかわらず**一歩間違えれば人生が大きく変わってしまう**こと。これが私が**ドライバーに一番伝えたいこと**です。

私が実際の事故事例や**ヒヤリ・ハット体験談**、**ドライブレコーダーの事故映像**をたくさん見たことで**意識が変わったように毎月一回行っている全ドライバー対象の社内安全研修**ではそういった事例を毎回紹介しています。

研修を受けたドライバーが今まで以上に**安全意識**を持ち明日から少しでも**運転が変わり事故の危険が少なくなる**よう毎回毎回祈る思いで実施しています。

事故という思い出すのは、私が**ドライバー時代に目撃した光景**。交差点で大型トラックが停車しており、その脇で**ドライバーらしき女性が警察官に肩を支えられて泣き崩れて**いました。「事故だな」と瞬時にわかりましたが、後日**左折時の巻き込みで自転車の子高生が亡くなった**ことを知った時は**ショック**を受けました。

当時は「もし自分が**加害者になってしまったら**」と思うとハンドルを握るのが怖くなったのですが、今は「もし**わが社のドライバーが事故を起こしてしまったら**」といった大きな不安と「**わが社のドライバーに絶対にそのような悲しい思いをさせてはならない**」という強い思いが交錯しています。

ひとたび運行に出来れば、事故を起こしたり巻き込まれたりする確率は絶対にゼロにはなりません。そこを**どうしたらゼロに近づけることができるのか**。どうしたらもっともっと**ドライバーの安全意識を強くすることができるのか**。毎回毎回そんなことを悩み考えながら研修を行っています。

時には「こんな研修続けて意味があるのか?」「かえって**ドライバーの負担**になっていないだろうか?」と**弱気になってしまう**ことも度々です。

しかし、**ヒヤリ・ハット体験談**や**事故の目撃談**などを積極的に話してくれる**ドライバーが少しずつ増えてきた**ことや**事故の発生件数が徐々に減っている**ことで、やはり地道に**コツコツと粘り強く社内安全研修を継続**していく以外に**事故を減らす方法は絶対に無い**と自分に言い聞かせています。

今後は私だけでなく**他の管理者やドライバーの代表に研修を実施**してもらうなど**違った角度から社内安全研修を実施**しより活発な研修ができるよう取り組んでいきます。

一日の運行を終え、**疲れているのにもかかわらず社内安全研修に参加してくれるドライバー**の為に**参加してよかった**、**またこの次も参加したいと思える研修**を今後も悩み考えながら継続していきます。

そして、現実**に事故がゼロになり全社員が「この会社に勤めてよかった」と**言える会社を目指し日々取り組んで参ります。